ひとりごと

「初めての都会生活」

今年４月から始まった初めての東京での生活。生まれてこの方、都会で生活したことがなく、この４月からの都会生活は本当に辛かった。唯でさえ新たな職場での慣れない業務に追われる中で、電車の乗り方でさえおぼつかなかった４月。（本当なら、緊張して眠ることなど出来ないはずなのに）電車の中で居眠りをして、気づけば他県だったこともある。そんなこともありながら、４月当初に比べて随分と東京での生活も悪くないなと感じられるまでになった。仕事面での不安はまだまだあるが、何より東京での生活に馴染めるかが不安だったのに…。長々と愚痴を語ってしまったが、何が言いたいかというと、都会生活にしても慣れない業務にしても、必死にもがいていたら何とか慣れるものだということである。だからと言って、生粋の都会人になれた訳でもないし、業務が簡単にこなせるようになった訳では決してないが…。それでも、４月当初に抱いていたような何とも言えない不安感や重圧感は確実に薄れてきている。人生は何歳からでもチャレンジできるし、それを乗り越えることもできると感じ始めることができた。

思えば、今の職場では各教育委員会に在籍している方を対象とした研修講座なども主催しており、その準備のために多くの時間を割いてきた。各自治体の悩みも様々で、色々な方からのお話やご相談を聞かせて頂き、文部科学省職員としての回答が必要な場面も多く苦労することもあったが、ここに居るからこそ経験できることもたくさん経験させてもらっている。また、久しぶりに現場の先生方と色々な話をする機会を得ることで、改めて自分が教師であることに気づかされた。よく考えてみると、もともと高校教員として数学を教えていたのに、気が付けば文部科学省で行政職として働いている。４年前に３年生を卒業させて一緒に感動していた当時の自分には想像もつかないことである。東京へ来る直前の３年間は教育委員会で指導主事として勤務したが、その時でさえ、現場の先生方の授業を見て協議をし、時には数学について熱く語っていた。なのに、この春以降（もうすぐ半年が過ぎようとしているが）、数学のことを考えたことが果たして合計５分あっただろうか？

今の業務が教育にとって重要なことであることは重々理解できるようになったし、今の業務を蔑ろにするつもりは一切ないが、この原稿の執筆にあたって、自分は数学教員なのだと改めて気づく。そしてよくよく考え直してみると、周囲の親切に接して下さる職員の皆さんの処理能力の早さや論理的に筋道を立てて考える様というのは、やはり数学だけでなく全てが万遍なく優秀である証拠ではないかと思う。一介の田舎の数学教員にはやはり過ぎたる職場であると畏敬の念を抱くとともに、折角のチャンスなのだから、数学に拘ることなく吸収できるものを全て吸収して残りの半年を過ごしたいと思う今日このごろである。

（H.K）

「教育委員会月報　令和５年10月号　No.888」

・**発行・著作** 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
・TEL：03-5253-4111（代表）
・URL：https://www.mext.go.jp

文部科学省